

つばめ通信

10月号

スラバヤ日本人学校

令和8年10月14日



朝雲分けて 燕帰りぬ プラタスの里に 幾千里 日本生まれの子を励まして われらスラバヤの子 燕に学ぶ 努力の証

「令和8年度も折り返しを迎えました。」

日本で二学期制を取り入れている自治体や学校では、連休明けの昨日や今日から二学期がスタートする場合も多いと聞いています。学期の途中ではありますが、スラバヤ日本人学校でも令和8年度の学校生活が折り返しを迎えました。

先日行われた、10月の全校朝会では、私のマラソンの経験をもとに折り返しに対する心の変化から、今後の頑張りを期待することについてお話ししました。

『マラソンの前半は、体調も良く疲れも少ない状態です。だから、肉体的に自分のペースで走り続けることはある程度出来るものです。しかし、「まだ、たくさん距離が残っている。最後まで走り切れるかな。」とか「まだ半分以上ある。今と同じ状態で、頑張れるのかな。」、「目標としたタイムに向け、今のペースを維持できるのかな。」など心の中では多少の不安を抱え、手探りの状態で走っています。そして、折り返し地点が見えてくると「もう少しで半分が終わる。あと半分走れば良いのだな。」とだんだん不安よりも前向きな気持ちが強くなってきます。そしていよいよ折り返し地点を超えると、「残り半分の切った。ここまで走ってこられたのだから、それより少ないので必ず走り切れる。」とか「ここまで頑張れたのだから、残り少ない分、まだまだ頑張れる。」などここまで走ってきたことが自分の自信につながり、不安な気持ちが消え、気持ちに余裕さえ出てきます。この気持ちの変化が、疲れてきている自分の体を動かし、走り続ける原動力となりました。そして、あきらめず最後まで走り続けることが出来、何とか無事に完走することが出来ました。完走できたことから自分が頑張れたという自信と達成感を感じ、「また、マラソンに挑戦しよう。」「次はこんなタイムでゴールしたい。」など次への意欲につながっていきました。スラバヤ日本人学校のみなさんも、ここまでの令和8年度の前半は、それぞれが進学、進級し新しい仲間や先生方の中で、手探りしながら、様々な行事や活動に取り組んできたと思います。その中で、皆さんは精一杯頑張りと、学習に運動に大変充実した学校生活を送ることが出来ました。ここまでのみなさんの頑張りは大変立派なものでした。これまで上げた成果や自分の成長に自信をもって欲しいと思います。そして、もっともっと自分は頑張れるという前向きな気持ちとここまで頑張れたという自信を胸に、残り半分の令和8年度の学校生活をさらに充実させ、無事に一年間を完走してほしいと思います。みなさんが残りの半年でさらに大きく成長してくれるものと期待しています。』

子どもたちの心の中に話の内容が少しでも残り、令和8年度の後半も頑張る意欲につながればうれしいです。

今月は第33回国際文化交流会という大きな行事が控えています。この行事に向けて、子どもたち一人一人が本当によく頑張っています。保護者の皆様方、当日、お時間が許せばぜひご来校いただき、子どもたちへの励ましとお褒めの言葉をかけていただけたらありがたいです。

スラバヤ日本人学校の子どもたちの健やかなる成長のために、これからも学校、保護者、学校関係者の皆様と力を合わせ取り組んでいきたいと思っています。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

文責 熊田 雅彦